

## 委員会開催概要

回数		検討・確認内容	今後の課題
第2回  H17.10.17  かながわ県民サポートセンター	平成17年度試験施工内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来にわたって施工しない比較対象の場所を設け同時にモニタリングすることにより施工の評価をしていくべき。</li> <li>・各検証項目について、具体的な検証方法を詰めて明記しておくべき。(後の評価のため)</li> <li>・木製ガリー浸食防止工については、手法としては検討の必要が無いわけではないが、堂平のあの場所で施工(たとえ試験的であっても)することは是非についての議論があるため、H17の施工は見送る。</li> <li>・ガリーの進行など実態がわかっていない部分もあるため、実態を先に整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から各検証方法の具体案提示</li> <li>・ガリーの現況写真、現存する木製構造物の状況</li> <li>・現況のまま保存するエリアを地図におとす。</li> </ul>
	丹沢大山保全対策の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から、塩水川流域保全構想の検討の進め方、現行の丹沢大山保全対策事業の実施状況について説明。</li> <li>・行政資料も検討材料とするようだが、これまでは無かったことで、ぜひ必要なこと。</li> <li>・現状のシカ管理での目標密度は暫定的な設定である。広い意味での緊急対策としたら、何らかの大量捕獲方法でシカ密度を極端に下げるといった試行も考えられる。ただし、この委員会での議論では不十分で他との調整が必要となる。</li> <li>・シカ対策は、特定の流域だけの検討では済まないの、別に専門的に議論する必要がある。</li> <li>・丹沢大山保全対策事業の達成度は、数量だけでなく定性的な課題に対するものも整理するべき。</li> <li>・事業評価も定性的評価が必要。</li> <li>・各対策事業は、もともとはシカが原因となるものが多い。シカ密度が高いことが個別事業とどう関連しているかを整理し、シカ管理という面から整合を図ったらどうか。</li> <li>・他に焦点となるのが、高標高域の植生回復(土壌保全)、中標高域の収容力を増やす人工林管理のあり方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工林で下層植生のないところの図示</li> <li>・流域内の溪畔林を図示</li> </ul>